RUGBY　W 杯日本大会~2019~

久留米支部　久留米県土整備事務所　田中芳生

1. はじめに

令和元年 9 月 20 日金曜日、日本で新たな歴史が刻まれようとしていた。そう、ラグビーW カップ 2019 が開幕したのである。実は、これまでラグビーW 杯がアジアで開催されたことがなかった。そういった意味でも歴史的な大事件である。なぜ、今回このテーマを取り上げたかというと、私自身がラグビー経験者であるということ。そして何より、ここ福岡もその W 杯の会場に選ばれ、尚且つ、日本代表に福岡県出身の選手が 2 名も選出されていたからである。

ところで読者は、どれぐらいラグビーのことを知っているだろうか？ここでは、ラグビーについてあまり知らない通称“にわかファン”の読者のためにラグビーのことをもっと知ってもらい、よりラグビーを好きになってもらえたら幸いである。

2. ラグビー観戦を楽しむために

ラグビー観戦を楽しむために知っておくべきことがいくつかある。ルールと専門用語である。

ここでは基本的なルールについて説明しよう。

① 得点方法

得点方法は３種類あり、トライ、ペナルティゴール、ドロップゴール、コンバージョンゴールである。

“トライ”とは、ボールを持ったプレイヤーが相手のゴールエリア内で地面にボールを抑えることである。１トライは５点獲得となり、トライを決めるとコンバージョンキックを蹴る権限が与えられる。“コンバージョンゴール”が成功するとさらに２点獲得し、合計７点獲得したこととなる。

“ペナルティゴール”は相手が反則した場合に与えられるペナルティキ

ックで、直接ゴールを狙い、成功すると３点獲得できる。
“ドロップゴール”は、ボールを一回地面に落として蹴る“ドロップキック”によってゴールを狙い、成功すると３点獲得できる。
つまり、いかに敵陣でプレーができるかが勝負の鍵となる。
ちなみに、ゴールの成功とはＨ型のポールの間をボールが超えることである。

② ボールを前に投げてはいけない
ボールを前に投げると“スローフォワード”という反則を取られる。
この反則を取られた場合、相手ボールのスクラムでゲームを再開する。
つまり、ボールは横、もしくは後ろに投げなければならない。

③ ボールを前に落としてはいけない
ボールを前に落とすと“ノックオン”という反則を取られる。
この反則を取られた場合、相手ボールのスクラムでゲームを再開する。
つまり、味方を思いやり、キャッチしやすいよう愛情のこもった“愛情パス”を投げる必要がある。これは業務を引き継ぎ場面と同じで、次の担当者がノックオン（ミス）をしないように、愛情のあるパス（引き継ぎ）を出す必要がある。
ボールを後ろに落とした場合はゲームをそのまま続行をる。

④ 危険なプレーはしてはいけない
ラグビーは安全なスポーツであるため、危険なプレーをしてはいけない。
特に多いのが首より上へのタックル“ハイタックル”である。
レフリーに危険なプレーと判断された場合、“シンビン”という反則を取られ、最悪の場合、レッドカードを出され退場だ。その場合、最後までゲームに参加できなくなるため、チームにもかなり迷惑をかけることとなる。イエローカードの場合、１０分間退場だ。
いずれの場合も相手ボールのペナルティキックによりゲームを再開する。
危険なプレーは雰囲気を悪くするため絶対にしてはいけない。

⑤ 倒れたらボールを離そう
タックルを受けて倒されるとボールを離さなければならない。ボールを離さなかった場合、“ノット・リリース・ザ・ボール”という反則を取られる。この場合、相手ボールのペナルティキックによりゲームを再開する。ボールを離したくないのであれば倒されないように強くなれという

ことである。仕事も同じでボールを持ち過ぎるのは良くないことである。

⑥ 倒したら相手を離そう
タックルで倒した相手は離さなければならない。離さなかった場合、“ノット・ロール・アウェイ”という反則を取られる。この場合、相手ボールのペナルティキックによりゲームを再開する。いつまでも寝てないで、立ち上がってボールを狙えということである。

次に今大会でよく耳にした専門用語について3つほど紹介しよう。

① ジャッカル
タックルを受けて倒れている相手からボールを奪うこと。素早くジャッカルすることで、相手の反則を誘うことができる。

② オフロードパス
タックルを受けながら味方にパスを出すこと。これをするためにはタックルに耐えられる強靭な肉体とメンタルが必要である。そして我々の仕事に欠かせないのも強靭な肉体とメンタルである。とても通じるものがある言える。

③ ノーサイド
ラグビーにおけるゲームセットを意味する言葉である。また、試合が終われば、敵サイド、味方サイド関係なくお互いを称え合おうという意味も込められている。我々の業務で言うならば、完成検査がそれにあたるだろう。それまで受注者、地元の人たちとより良い関係が築けていれば良いノーサイドを迎えられ、また一緒に仕事をしたいと思われたり、信頼してもらえたりするからである。それがラグビーの中で私が一番好きな言葉“ノーサイド”である。

ここで紹介しきれなかったルール、専門用語が他にもたくさんあり、覚えるのはとても大変であると思う。私自身は試合を経験することでルールを覚えてきた。そこで私は提案したい。これを期にラグビーを始めてみてはいかがだろうか。

3. 福岡が生んだスーパースター

○　F 岡堅樹　選手

日本代表ではウイングというポジションでプレーしていた。彼は F 岡高校を卒業後、T 波大学でプレーしていた。大学卒業後は、P ナソニックワイルドナイツでプレーをしている。来年 2020 年のオリンピックを期に引退し、医師への道を進むそうだ。文武両道であり、まさに福岡が生んだスターと言える。医学会での彼の今後のますますの活躍を期待したい。

○　N 大　選手

日本代表ではスクラムハーフとしてプレーしていた。彼の出身は久留米市内である。私の職場の近くでスターが生まれ育ったと考えると、とても感慨深いものである。そんな彼は、高校は熊本県の A 尾高校に進学し卒業後、名門 T 京大学ラグビー部でプレーをしていた。4 年時にはキャプテンを務め、見事 T 京大学を 6 連覇に導いた。大学を卒業後、トップリーグの強豪チーム、S ントリーサンゴリアスでプレーをしている。また、2018 年には国際リーグであるスーパーラグビーの日本チーム、サンウルブズでキャプテンも務めており、まさに今、スター街道を突っ走っているところである。久留米で働く者として、これからも彼を応援していきたい。

4. 最後に

今回のＷ杯は巨大な台風に見舞われ、試合ができず悔しい思いをしたチームもあった。一方その中でボランティア活動をして帰国したチームもあり、まさに国際的なノーサイドの精神を見せつけられた素晴らしい大会であったと言える。災害ボランティアへ参加していただいたことについて、一土木行政職員として感謝の意を示したい。

また、Ｆ岡堅樹選手やＮ大選手のようなスターを輩出できるように、子供たちが伸び伸びとスポーツに打ち込めるよう、その環境をつくりあげるべく、より一層、安心安全なインフラ整備に“ONE TEAM”で取り組んでいく所存である。

そして最後に、今後の日本のラグビーの発展はこれを読んでいる読者にかかっている。にわかファンでもいい。このＷ杯日本大会をきっかけにラグビーのことを好きになってくれる人が増えることを切に願うばかりだ。